

年末年始に高校生の全国大会開催

サッカー、ラグビー、バレー、バスケット

年末年始に高校生の各競技の全国大会が東京や大阪など各地で開催され、高校スポーツに賑わいを見せた。

サッカー男子の全国高校選手権は、決勝で青森山田（青森）が大阪（熊本）を4-0で圧倒し、3大会ぶり3度目の優勝。大阪は熊本県勢初の優勝とはな



突進する東海大大阪仰星の中後一朗選手(左)



スパイクを放つ日本航空の前嶋悠仁選手(右)



後半、ゴールを決める青森山田の松本選手(右から2人目)



第2クォーター、攻め込む桜花学園の横山智美選手(手前)

ラグビーの全国高校大会（男子）は、東海大大阪仰星（大阪第2）が初優勝を目指した国学院栃木（栃木）を36-5で下し、4大会ぶり6度目の優勝を遂げた。

バレーボールの全日本高校選手権は、男子の日本航空（山梨）が鎮西（熊本）に3-1で逆転勝ちして初優勝。女子は就実（岡山）が古川学園（宮城）を3-1で破り、2大会連続4度目の優勝。深沢めぐみ主将は「1年間苦しいこともたくさんあった。美希さん（西畑監督）に金メダルを掛けられることがうれし」と話しながら涙を流した。

バスケットボールの全国高校選手権は、女子の桜花学園（愛知）が京都精華（京都）に61-57で競り勝って3連覇。24度目の制覇で、大会最多の優勝回数を3年連続で更新した。男子は福岡大大濠（福岡）が帝京長岡（新潟）を59-56で下し、28年ぶり3度目の頂点に立った。

世界最高のリーグ目指し「リーグワン」開幕 ラグビー

ラグビーの国内新リーグ「リーグワン」が8日に開幕した。開幕戦として予定されていた7日の1試合が、新型コロナウイルスの影響で中止となったため、開幕が8日にずれ込み、3試合が予定通り行われた。

リーグワンはこれまでのトップリーグ（16チーム）を発展させる形で誕生し、1部は12チーム、2部と3部は各6チームで構成。1部は2組に分かれ、同じ組とは2回戦総当たりで10試合、別の組とは1回戦総当たりで6試合の計16試合を5月まで行う。上位4チームが決勝トーナメントに進み、優勝を争う。

リーグワンには世界のトップレベルの選手も数多く加入し、さらなる競技レベルの向上が目標。玉塚元一理事長は「フアン」の皆さんと素晴らしいリーグをつくる。世界最高のリーグを目指します」と開幕宣言した。



8日、味の素スタジアムで試合を楽しむ観客たち

小林陵侑選手が2度目の総合優勝 スキージャンプ週間

ノルディックスキージャンプ競技のワールドカップ（W杯）のうち、年末年始にヨーロッパ各地で4試合が開催されるジャンプ週間は、1953年に始まった伝統のある特別な大会。2021年22年シーズンは、昨年12月末から今年1月初旬にかけて4連戦が行われ、小林陵侑選手が第1戦から3連勝し、6日の最終戦で5位に入り、3シーズンぶり2度目の総合優勝に輝いた。2度の総合優勝は日本勢では初めて。

5日の第3戦で小林選手は、1回目のジャンプで137メートル、2回目



ジャンプ週間で総合優勝に輝き、喜ぶ小林選手(EPA時事)



第3戦での小林選手の飛躍(AFP時事)

137.5メートルを飛んで優勝し、完全優勝（4戦全勝）に王手をかけた。第4戦も勝てば、18年19年シーズン以来、史上初となる2度目の完全優勝となるどころだったが、5位に終わって惜しくも偉業達成はのがした。

小林選手は「めっちゃめちゃ緊張した。たぶんグランドスラム（完全優勝）を考えた」と最終戦を振り返り、史上初の偉業がプレッシャーになったことを打ち明けた。「ちよっと悔しいけど、2度目のグランドスラム（総合優勝）を取れてうれしい」と笑顔で話した。同じ競技をしている兄の小林潤志郎選手とともに2月の北京五輪に出場する予定。

女子シングルの山口選手が初優勝 保木・小林組は男子ダブルスで日本勢初V バドミントン世界選手権

バドミントンの世界選手権大会の決勝戦は、昨年12月19日にスペインのウエルバで行われ、女子シングルの山口茜選手が第1シードの戴資穎選手（台湾）に2-0で快勝し、初優勝した。日本選手がこの種目で勝ったのは、2017年の奥原希望選手以来2人目。

男子ダブルスは、保木卓朗選手と小林優吾選手のペアが中国ペアに

2-0で勝ち、この種目で日本勢初の優勝を果たした。

混合ダブルスは、東京五輪で銅メダルを獲得した渡辺勇大選手、東野有紗選手のペアがタイのペアに0-2で敗れて2位となり、初優勝にはならなかった。

男子シングルスで3連覇を目指していた桃田賢斗選手は、腰痛のため大会を欠場した。



男子ダブルスで日本勢初優勝を果たした小林選手(左)と、保木選手(AFP時事)